

12月5日

司祭教会博士アレキサンドリアのクレメンス

Titus Flavius Clemens

(150頃～215頃)

～古代ギリシア教父～



「アレクサンドリアの
クレメンス」

2世紀から3世紀初頭の古代ギリシア教父で、ティトゥス・フラウィウス・クレメンスが正式な名前である。通称、アレクサンドリアのクレメンスと表記される。

彼はアレクサンドリアの教父の一人で、アテナイ出身であると考えられている。彼の生涯とその思想は、ユスティヌスなどといった弁証論者と似た経過をたどっている。

クレメンスは20歳頃、キリスト教と出会い、その信仰に導かれる。そして、その師を求めて各地をまわっていた彼は、アレクサンドリアでパンタイノスと出会い、その門を叩くことになる。

パンタイノスのもと、彼はキリスト教について深く学んでいくことになるが、パンタイノスの死後、彼の後を継いでカテーケーシス学校を主宰する。その学校はディダスカレイオンとも呼ばれ、キリスト教を教えるものだった。

しかし、ローマ帝国によるキリスト教迫害は続いており、202年のセフェールス帝による迫害の時にクレメントはアレクサンドリアを離れ、身を隠す。その後、彼は一度カパドキアに現れたが、その後の消息は全く記録に残っていない。

さて、クレメントは豊富な哲学的教養をもっており、また、中期プラトン主義の思想的背景を持つ

ていた。彼はその思想を生かし、キリスト教の啓示真理を解明しようとした。

彼はギリシアの教養人に対しては、自らを真理として啓示する神の霊に向かわせるようにすすめ、また新たにキリスト教に入信した者に対しては、信仰を出発点として、知識へと向かわせようとした。彼の考え方である、ギリシア哲学とキリスト教信仰、知識と信仰の結び合わせは、後のキリスト教哲学と神学に大きく貢献をする。また「ロゴス・キリスト論」についても、現代に至るまで多大な影響を及ぼす。

彼の著作には「ギリシア人への勧め」、「師範」、「ストロマテイス」など、教育的な意図をもって書かれたものが残されている。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたは主のしもべ、司祭教会博士アレキサンドリアのクレメンスの教えによって公会を照らして下さいました。どうか天の恵みをもって公会をますます豊かにし、忠実な証びとを起して下さい。その生活と教えに倣い、わたしたちがすべての人に救いの真理を宣べ伝えることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン